

幼稚園 障害児教育2

神戸大学名誉教授 鳥居深雪

本日の概要



幼児の発達支援



多様性と特別支援



インクルーシブ教育と合理的配慮



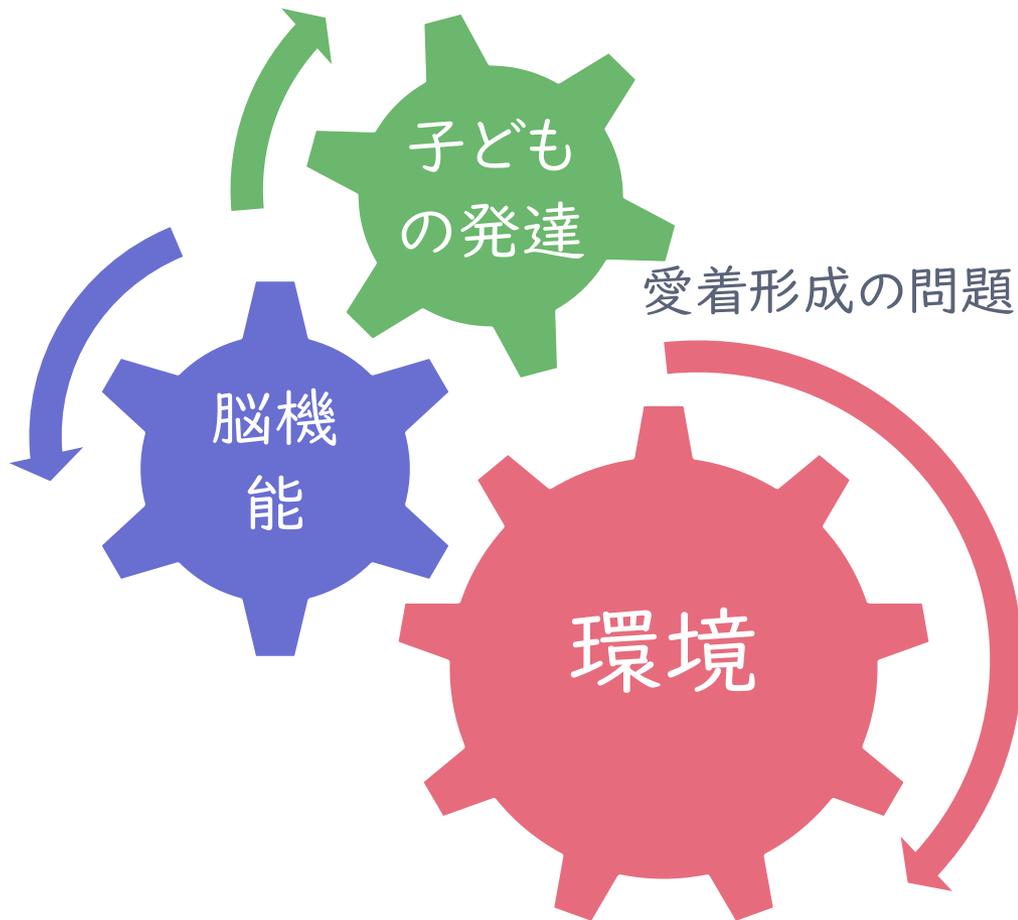
助けを求める力を育てる



まとめ

幼児の発達支援

子どもの臨床支援



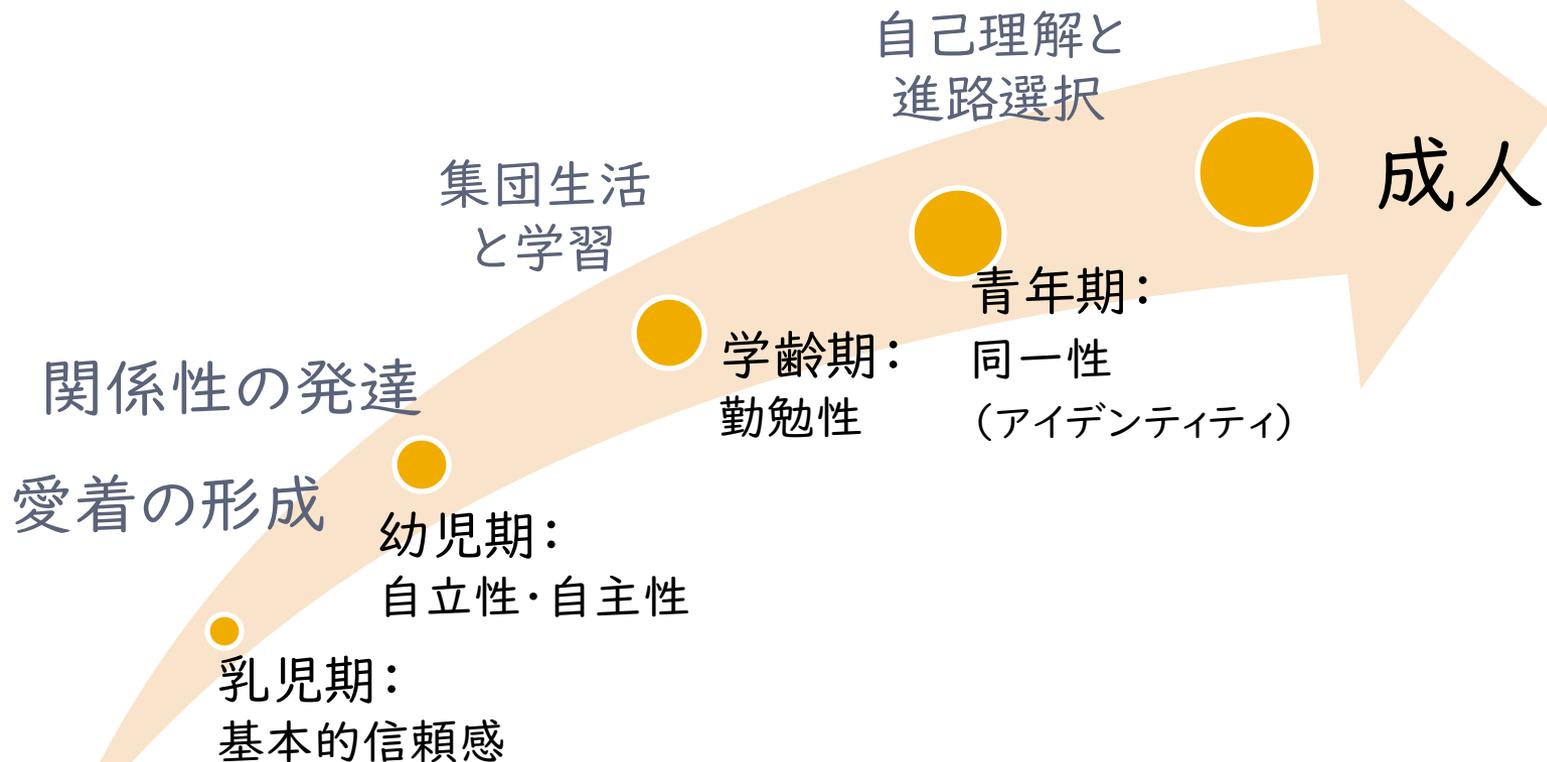
包括的理解 多様な要因を探る

- 子どもの発達: 発達
のつまずき、育ちの過
程 (相談歴・教育歴)
- 脳機能: 実行機能、注
意機能、学習、社会性
- 環境との関係: 学級
集団の質, 担任との
関係, 家庭環境,

各発達段階の課題と支援

思春期の課題

社会への移行



手厚い

援助を求める力

支援

ボトムアップ

トップダウン

アタッチメント (attachment、愛着)

- 子どもが養育者に対して抱く感情の絆 (ボウルビィBowlby、1969)
- 養育者を自分のもとに引き寄せるために備わった生得的行動
 - 定位行動 (顔を見る、声を聴く)
 - 信号行動 (微笑み、泣き、喃語)
 - 接近行動 (しがみつく、這う、歩く)

**被虐待児：反応性アタッチメント障害
発達障害とは別のもの**

ソーシャルモチベーション理論

- Social orienting (対人志向) 対人的なシグナル(表情、視線等)に優先的に注意を向ける。発達早期から見られる。
- Seeking and liking (対人的探索と好み) 対人的な世界に価値を見出すこと。対人関係自体がモチベーションとなる。幼児は協調を好む。
- Social maintaining (対人関係維持) 長期間、他者と関わりたいという願望

共同注意 (Joint Attention) の発達

生後10カ月頃～1歳過ぎ

他者と注意を共有する能力

- 共同注意への反応能力 :RJA
- 共同注意を開始する能力:IJA

行動	概要
視線の追従	他者の視線の先にある対象に視線を向ける
社会的参照	大人の表情や反応を見て、次の行動を選択する
ショウイング	自分が手にしたものを他者に差し出して見せる
ギビング	他者に物を差し出して渡す
要求の指さし	自分が欲しいものを指さして知らせる
叙述の指さし	関心を共有するための指さし
応答の指さし	「～はどれ？」に指さして答える

社会性の発達の基本

「社会性」の発達



「社会性」の学習の機会



人に注意を向ける

共同注意の獲得



ソーシャルモチベーション

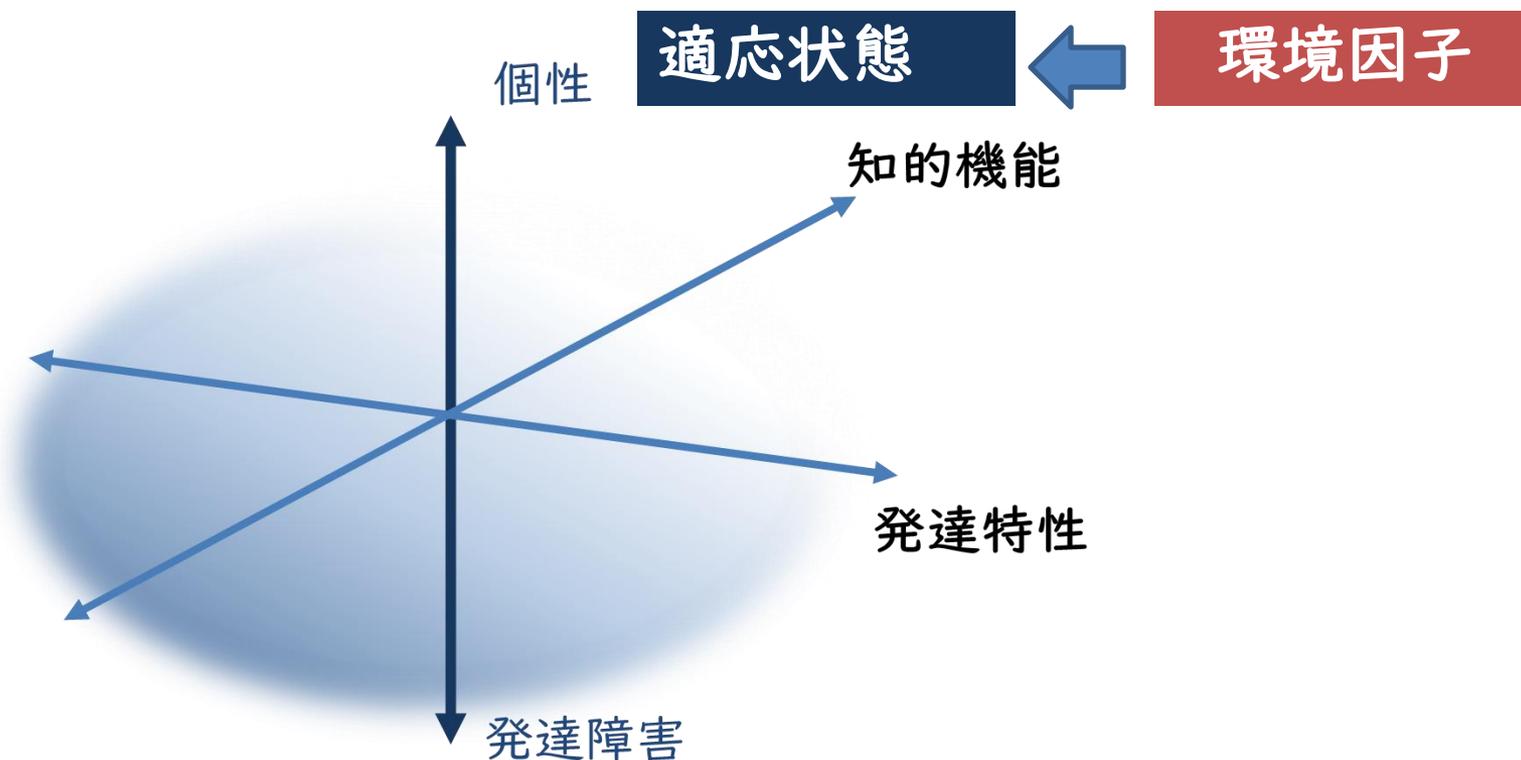
乳幼児期は
関係性の発達が重要な課題

多様性と特別支援

幼児の「気になる行動」(2023)

行動	%
じっとしてられない	69.3
こだわりが強い	67.7
指示が理解できない	63.9
注意・活動の切り替えが困難	62.6
かんしゃくをおこす	59.4
姿勢の保持ができない	55.8
他児とのトラブル	52.0
視線が合わない	40.8
極端な偏食	38.1
一人遊びを好む	38.6
相手の顔をうかがわない	34.5
触覚過敏	33.2
聴覚過敏	32.5

脳の多様性がある人 (Neurodivergent)



置かれている環境によって適応状態は異なる
当事者の自己理解と進路選択が重要

幼児期の特別支援

幼児期は発達的に未分化で個人差が大きい



「障害」の確定診断は困難



「診断」の有無にこだわらず、
幼児のニーズに応じた支援が必要

担任の要支援度の評価が重要

「早期診断」と「早期の気づき」

- 子どもの成長の可能性を支えるために、子どもの立場に立った幼児期からの支援が重要

医療モデル

早期発見→早期診断→早期治療（薬等）

「障害かどうか」が重要

保育・教育モデル

気づき→ニーズの把握→日常の中での支援

「必要な支援は何か」が重要

早期の気づきの重要性

- うまくやれない理由はさまざまでも、子ども自身が支援を必要としていることは同じ
- 「困難さ」に早期に気づき支援を開始すれば子どもは大きく成長する
- 気づきが遅れ本人を迫害するような対応をしてしまうと大きなダメージを受ける
- 成長の可能性を支えるためには、周囲の理解と適切な支援が重要

発達の指標

- 運動発達：定頸、始歩
- ことばの発達：受容言語、表出言語（喃語、初語、語彙、一語文、二語文）
- 社会性の発達：ソーシャルモチベーション、アイコンタクト、共同注意、人見知り・後追い（愛着の形成）、模倣、呼名への反応
- 興味・関心の対象
- 行動：多動性・衝動性
- 感覚の問題
- 情動の発達
- 環境

行動観察からのチェックポイント

- 「言語」理解 単語レベル<2語文<文法
- 呼名への反応（一度で反応できるか）
 - きこえの問題の確認（後ろから呼名する）
 - 社会性の確認
- 共同注意の確認
 - 他児の言動に注意が向くか, 関心を示すか
- 感覚の問題
 - 音: 騒々しい環境を嫌がる, 特定の音を嫌がる
 - 皮膚感覚: はだしを嫌がる, あるいは靴を嫌がる

発達の最近接領域 (P領域)

(P:Zone of Proximal Development) ヴィゴツキー

- 子どもの精神発達と教授—学習との関係を捉える心理学概念
- 現在、「できたりできなかつたりする」あるいは、「大人がちょっと手伝えばできる」 → P領域
- 「現在の発達水準」と他人との協同によって到達する水準「明日の発達水準」の間
- P領域を目標にする

例えば・・・

活動に参加できない, 楽しめない幼児



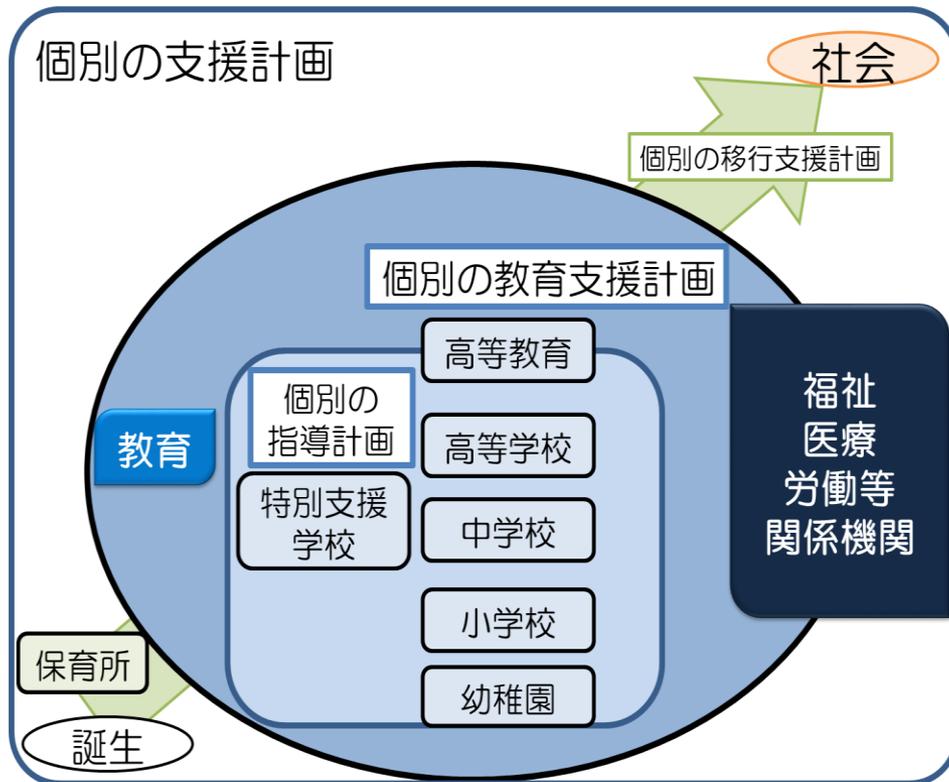
特別な支援が必要

- ちょっと声をかけたり, きっかけを与えたり, ちょっと手伝えれば参加できる, 楽しめる
- つきっきりでないと参加できない, 楽しめない

P領域は?

「個別の指導計画」作成

特別支援学級、通級指導での作成が義務



- 実態把握
- 本人の願い(子ども自身がどんな自分になりたいのか)
- 保護者の願い
- 長期目標
- 短期目標
- 指導の手立て(合理的配慮)
- 評価

インクルーシブ教育と 合理的配慮

インクルーシブ教育システム

共生社会の形成に向けて

障害者権利条約第24条に基づく

<目的>インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にする

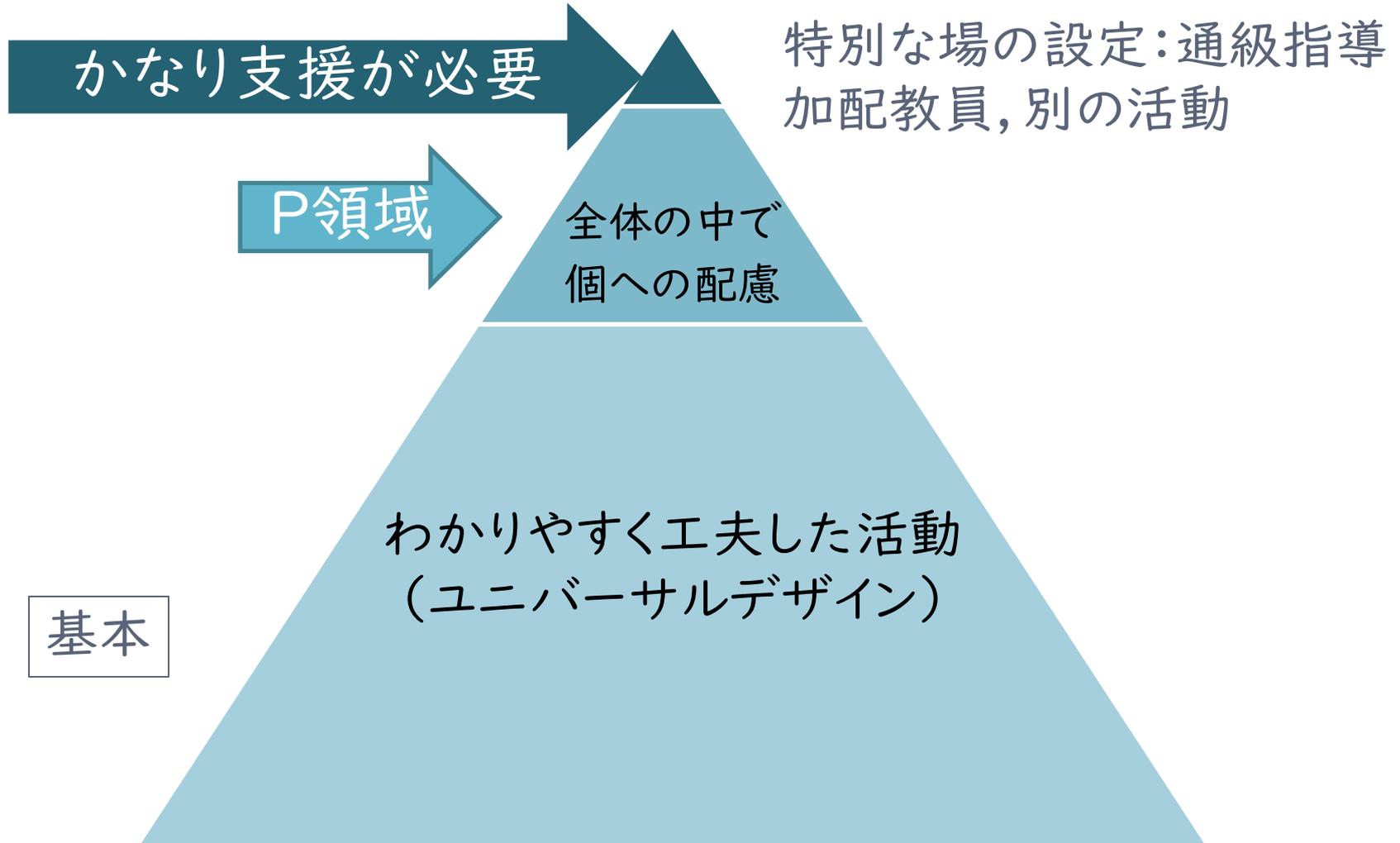
障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

基礎的環境整備
多様な学びの場

合理的配慮の提供

単なる場の共有ではない

活動の構成



「障害」のとらえ方の変遷

医学モデルから社会・包括モデルへ

医学モデル

「障害」のある人を「治療」する



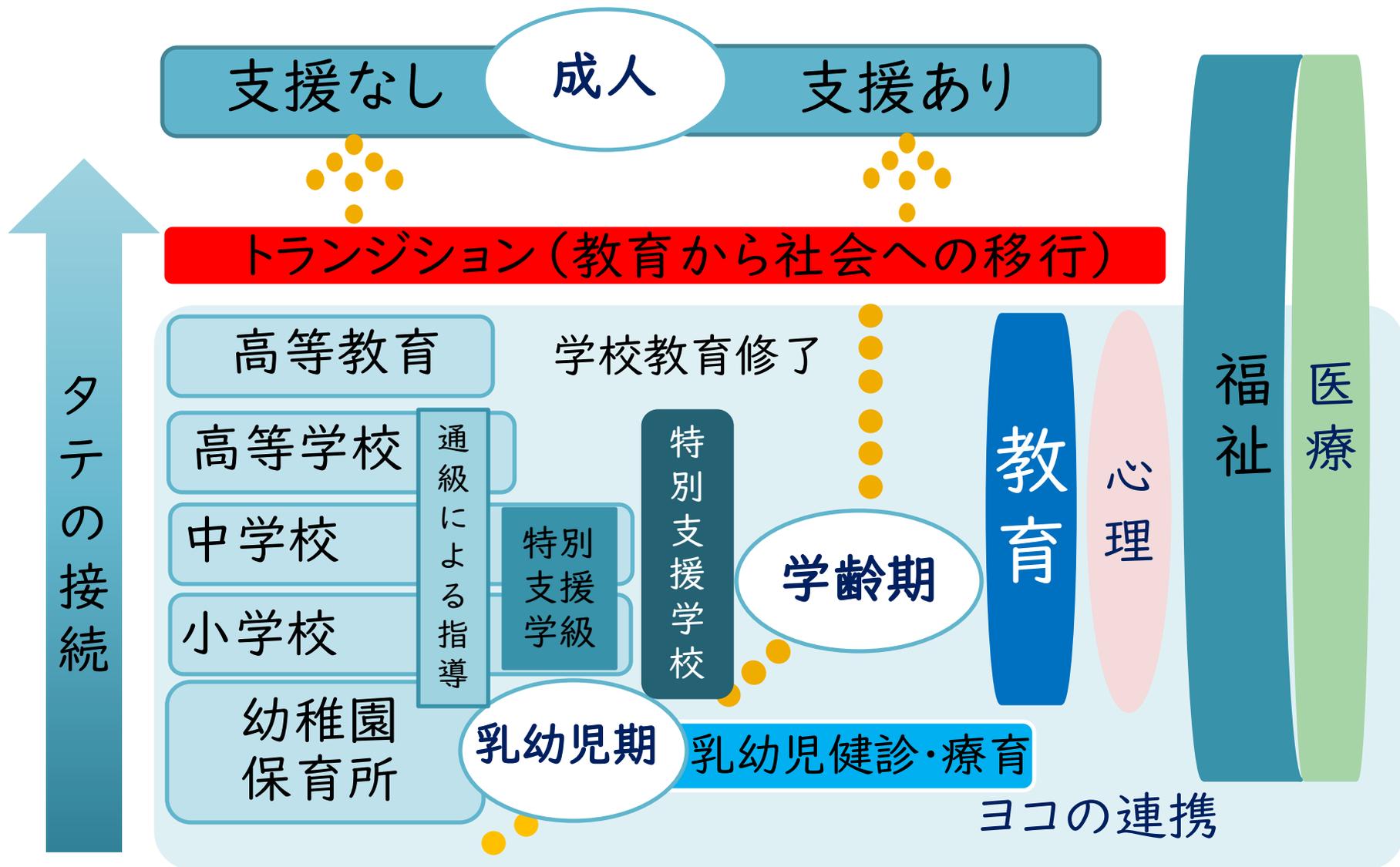
社会モデル

社会参加を阻むものが「障害」

包括モデル

個人の機能だけでなく、
背景因子（環境因子と個人因子）との
包括的な状態としてとらえる

多様な学びの場と包括的な支援



障害者差別解消法改正 2024施行

	不当な 差別的扱い	障害者への 合理的配慮
国の行政機関 地方公共団体等	<u>禁止</u>	<u>法的義務</u>
民間事業者	<u>禁止</u>	<u>法的義務</u>

合理的配慮

障害のある人からバリアを取り除くために配慮を求め
る意思の表明があった場合、負担が重すぎない範囲で
対応する

合理的配慮の例

- 感覚過敏に対して: 音の刺激を減らすために椅子や机の脚にカバーをつける、特殊なメガネの使用を認める
- 実行機能障害に対して: スケジュールの提示、To Do Listの作成、ワークシートの使用、ワーキングメモリの補助（外部記憶の活用）
- 読み書きの障害に対して: タブレットの使用、Daisy教科書またはデジタル教科書、読みやすいフォントの使用
- 言語理解の困難に対して: ゆっくりはっきりと話す

わかりやすい日本語

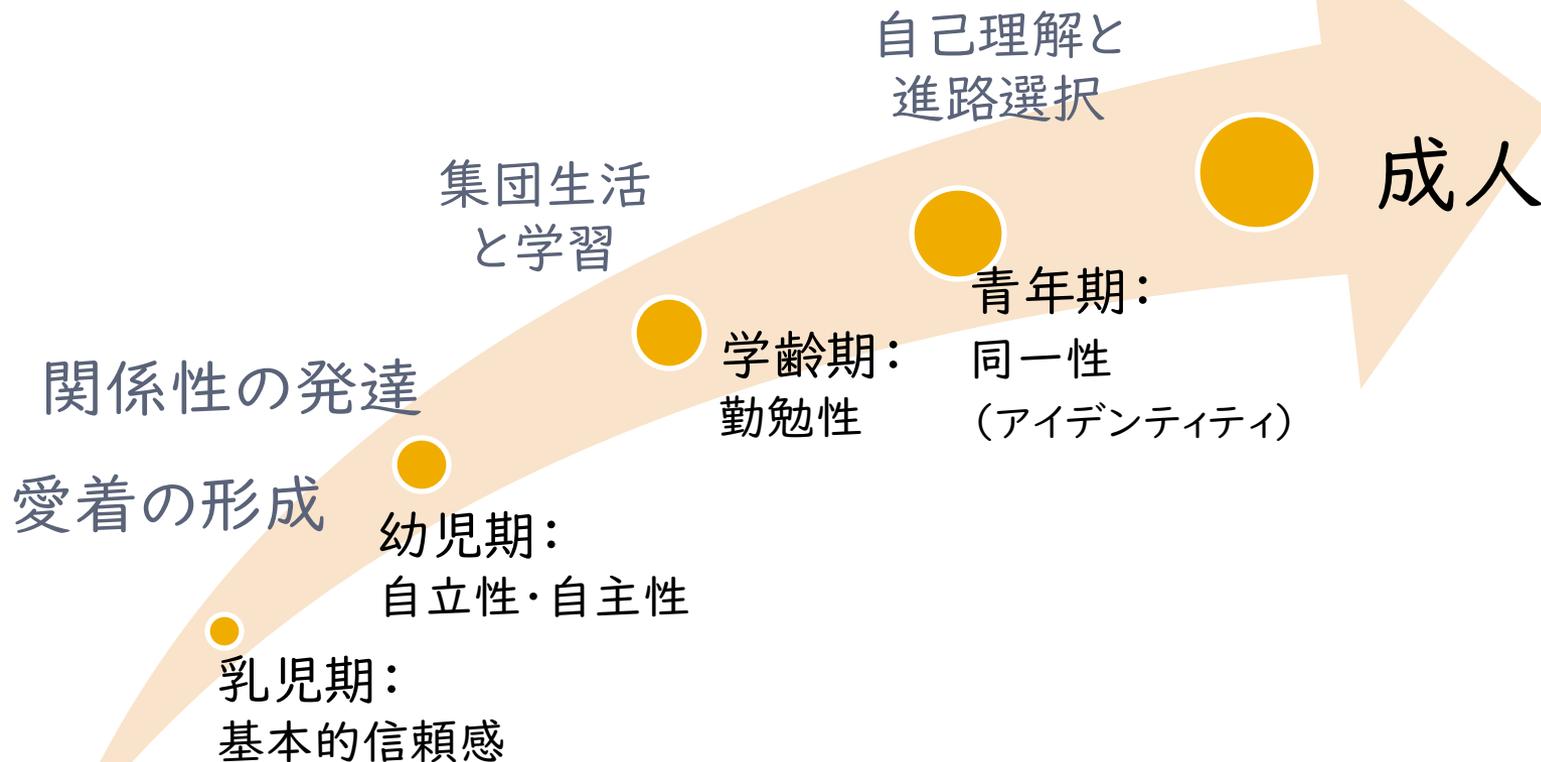
- 不器用さに対して: 机といすの高さの調節、OTからの助言の活用

助けを求める力を育てる

各発達段階の課題と支援

思春期の課題

社会への移行



手厚い

援助を求める力

支援

ボトムアップ

トップダウン

「助けて」と言えない

- 大人の「ひきこもり」 *Hikikomori*
- 援助を拒否する（男性にその傾向が強い）
- 餓死する社会的弱者（高齢者、貧困世帯）
- 全年齢での自殺者数は減少傾向だが、小中高校生の自殺者数は増加（2022年、約500人）
- 援助を求めることは恥と思う人たち（頑張ることが美德？）

達成感と援助要請

- 子どもが頑張ってきたことをほめることと、助けを求める力を育てることは対立しません
- 助けを求めることは恥ずかしいことではなく、より良い成果を上げるために重要なこと
- 援助してもらったら感謝すること
- 自分が他者の役に立つこともとても重要

セルフアドボカシーとは

- 障害者福祉から派生した概念
- 近年、医療・教育・心理・福祉など多方面に波及
- 自己権利擁護 自分自身の権利を守る
- 「自分を守る力」
- セルフアドボカシースキル（自己権利擁護力）
 - 「知る」
 - 自己理解
 - 援助要請力
- 障害の有無にかかわらず未来を生きる子どもたちに必要な力



特性は環境や成長によって
長所にも障害にもなる
すべての子どもの
多様性を尊重し
ニーズに応じた教育を保障する

自分を守る力として
セルフアドボカシーが重要
「援助を求める力」を育てる



最終目標は、その人らしい成長・人生